

研究発表2 -

## 自傷行為に至る原因の考察

奥村弓恵<sup>1)</sup> 伊藤恵理<sup>1)</sup> 小坂ひとみ<sup>2)</sup> 菊地俊<sup>3)</sup> 佐藤涉<sup>4)</sup>

1)心理士 2)看護師 3)作業療法士 4)医師

札幌太田病院 内観療法課

### 1. はじめに

当院では、平成12年頃から自傷、自殺願望者が増加し、病棟内内観療法、家族同時内観療法(以下本法という)により、治療効果を高めている。今回、自傷行為を呈した思春期症3例の治療から、行為に至る原因と家族関係を検討する。

### 2. 症例

【症例A】14歳女兒。主病名：行為障害。主訴：不登校3週間経過、飲酒、喫煙、自傷。家族：継父、実母、本人、妹弟。現病歴：中学入学後成績低下、部活を退部。同時期に夜遊びや喫煙、飲酒、暴力、剃刀や安全ピンで手首や顔を傷つける自傷行為が出現。来院時、左手首に長さ1cmの自傷痕数本あり。

【症例B】15歳女兒。主病名：不登校。主訴：不登校2カ月経過。家族：両親と本人。現病歴：高校進学後、父の転勤を機に転校したが、転校先の仲間と打ち解けられず、不登校となった。左手首に彫刻刀で長さ2cmの自傷痕6本あり、「親に隠れてやった」とリストバンドで隠していた。

【症例C】16歳女兒。主病名：行為障害。主訴：家庭内暴力、感情抑制困難。家族：両親、姉、本人。現病歴：中学入学後、教師や両親に暴言暴力が出現。カッターで手首の自傷を繰り返す。中学3年時、見知らぬ男性から性的被害を受けた。高校進学するも、教師と揉め、自主退学後一週間経過していた。

### 3. 治療経過

病棟内内観療法修了後、3例に本法実施。A氏は自傷の理由を「父は仕事、母は妹弟の世話で忙しく会話少なかった。死にたいと思ってリストカットした」と話した。B氏は「父母の仲が悪く、泣く母を見て行き場のない気持ちを手にぶつけた」と話した。C氏は「寂しい気持ちに気付いて欲しくて、リストカットや暴力になった」と語った。いずれの親も「子供と向き合う時間が少なすぎた」と反省した。

### 4. 考察

3例は、親との疎通欠如、孤独、不安、更に目標や自尊心の喪失、うつ気分から自傷に至ったと推測される。両親の不和や親子関係の拒否・希薄さは、子の心を不安定にする。親の愛情不足から自己否定が強まり、生きる意味を失い、自傷や非行に繋がる。今回の3例から、根本的な治療には家族相互の認知行動の修復が重要であり、本法は認知行動療法として有効であることを再確認した。